

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成20年9月25日(2008.9.25)

【公表番号】特表2008-520104(P2008-520104A)

【公表日】平成20年6月12日(2008.6.12)

【年通号数】公開・登録公報2008-023

【出願番号】特願2007-541320(P2007-541320)

【国際特許分類】

H 0 5 K 7/20 (2006.01)

H 0 1 L 23/467 (2006.01)

G 0 6 F 1/20 (2006.01)

【F I】

H 0 5 K 7/20 W

H 0 1 L 23/46 C

H 0 5 K 7/20 V

G 0 6 F 1/00 3 6 0 B

G 0 6 F 1/00 3 6 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月4日(2008.8.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱発生物を冷却するためのシステムであって、
空気導入口および空気排出口を有する筐体と、
筐体内に位置する熱発生物と、
空気導入口へと入り、筐体を通過し、空気排出口を出る空気流を生じさせるためのファンと、

熱発生物に対して離間した関係にあるように筐体内に位置する熱交換機と、
を含むシステム。

【請求項 2】

複数の熱発生物が、筐体内に垂直に位置している、請求項 1 に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 3】

熱交換機が、空気導入口に隣接して位置している、請求項 1 に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 4】

熱交換機が、空気排出口に隣接して位置している、請求項 1 に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 5】

ファンが、空気排出口に隣接して位置している、請求項 1 に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 6】

ファンが、空気導入口に隣接して位置している、請求項 1 に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 7】

ファンが、空気導入口に隣接して位置しており、第2のファンが、空気排出口に隣接して位置している、請求項1に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 8】

複数の熱発生物が、筐体内に垂直に位置しており、複数の熱交換機が、隣接する熱発生物の間に熱交換機が離間した関係で位置するように筐体内に位置している、請求項1に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 9】

熱交換機が、マイクロ・チャンネルを含む、請求項1に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 10】

熱交換機が、冷媒を含む、請求項1に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 11】

冷媒が、2相の冷媒である、請求項10に記載の熱発生物を冷却するためのシステム。

【請求項 12】

熱発生物を冷却するためのシステムであって、
空気導入口および空気排出口を有する筐体と、
筐体内に位置する熱発生物と、
空気導入口へと入り、筐体を通過し、空気排出口を出る空気流を生じさせるための手段と、
筐体を通過して流れる空気から熱を取り去るための手段と、
を含むシステム。

【請求項 13】

筐体内に位置する熱発生物を冷却するための方法であって、
熱発生物から離間して位置するように、熱交換機を筐体内に位置させることと、
空気導入口へと入り、筐体を通過し、空気排出口を出る空気流を生じさせ、熱交換機によって筐体を通して流れる空気から熱を取り去ることと、
を含む方法。

【請求項 14】

熱交換機を位置させることが、熱交換機を空気導入口に隣接させて位置させることを含む、請求項13に記載の方法。

【請求項 15】

熱交換機を位置させることが、熱交換機を空気排出口に隣接させて位置させることを含む、請求項13に記載の方法。

【請求項 16】

複数の熱発生物が、筐体内に垂直に位置しており、熱交換機を位置させることが、熱交換機を隣接する熱発生物の間に、熱交換機と熱発生物とが互いに離間して位置するように位置させることを含む、請求項13に記載の方法。

【請求項 17】

空気流を生じさせることが、ファンを空気導入口に隣接して位置させることを含む、請求項13に記載の方法。

【請求項 18】

空気流を生じさせることが、ファンを空気排出口に隣接して位置させることを含む、請求項13に記載の方法。